

◇金色堂大修理五十年記念

# 中尊寺 新能

6月1日(金) チケット発売開始

平成30年8月14日(火)午後4時半始  
中尊寺白山神社能舞台

祭 儀  
火入之儀

笠之段  
佐藤寛泰

駒之段  
出雲康雅

佐藤寛泰  
高野和憲

一七・二〇  
一七・二〇

鐘之段  
塩津哲生

塩津哲生  
常好

一七・二〇  
一七・二〇

和泉流  
狂言  
水掛け舞

アド・舞  
高野和憲  
内田利成

一八・〇〇

シテ・舅  
佐々木多門

アド・妻  
破石晋照  
野村万作

一八・〇〇

能  
船弁慶  
真之伝  
ワキ・武藏坊弁慶  
内田利成  
子方・源義経  
後シテ・平知盛の靈  
前シテ・静御前  
佐々木多門  
ワキツレ・義経の従者

アイ・船頭  
森

常好

森  
常太郎

常好

アイ・船頭  
野村萬斎

常好

終演予定  
一九・三〇頃

会費 薪能奉賛券

B A S  
学生 一〇、〇〇〇円  
三四、七、〇〇〇円  
〇〇〇〇〇円 (当日八、〇〇〇円)  
〇〇〇〇〇円 (当五、〇〇〇円)  
〇〇〇〇〇円 (六一、二二一〇)  
〇〇〇〇〇円 (六一、二二一〇)

お申込み 中尊寺薪能の会  
電話 (〇一九二) 四六一、二二一〇  
※雨天も催行(見所屋根一部架設)

※写真撮影・録音・録画不可

プレイガイド／一関文化センター・仙台市藤崎プレイガイド・仙台市三越プレイガイド・盛岡市川徳デパート  
奥州市文化会館(Zホール)・北上市本通小田島書店

喜多流

中尊寺

## 薪能

たきぎ

のう

一六・三〇

祭儀 白山神社宮司

火入之儀 薪能奉行

一七・〇〇

仕舞

笠之段

駒之段

鐘之段

佐藤寛泰

出雲康雅

塩津哲生

塩津圭介

地謡

狩野了 一

長島

茂

金子敬一郎

一七・二〇一

能  
船弁慶 真之伝  
 子方・源義経 内田利成  
 後シテ・平知盛の靈 前シテ・静御前  
 佐々木多門  
 ふなべんけい  
 ワキ・武藏坊弁慶 森常好  
 ワキツレ・義経の従者 森常太郎  
 アイ・船頭 野村萬斎  
 大鼓 亀井洋佑 太鼓  
 小鼓 森貴史 笛  
 中村邦生  
 内田成信  
 地謡  
 金子敬一郎  
 友枝真也  
 長島輝久  
 猪谷能夫  
 狩野了 一  
 塩津圭介  
 小寺真佐人  
 友枝雄人  
 長島茂  
 一増隆之  
 前見

和泉流

狂言

水掛け智聰

 シテ・舅  
 アド・妻  
 野村万作  
 高野和憲  
 破石晋照
 

(休憩)

附祝言

一終演予定 一九・三〇頃

知盛の将の格を高める「真之伝」の演出が、薪能において一段と効果を上げる。知盛の装束が白色基調の姿となり、半分だけ揚げる幕の内側よりの名乗りが舞台の緊張感を高める。

前後のシテ（主役）である静御前と知盛を一人で演じ分ける手法や、義経の役を子方にしてることなど、能特有の手法で構成され、後世の演劇にも大きな影響を与えた名曲。



「船弁慶」前シテ・静御前

稲は順調に育てているが、真夏の日照り続きた。智が田の見回りに行くと、隣の男の田には水があるのに、こちらの田はカラカラ。驚いて、水を自分の田に引き入れ、よそへ見回りに出かける。入れ違いに見回りに来た舅が田に水がないのに気づき、智の田から水を引き戻すと、水を取られないように番をする。そこへ再び智がやって来て、二人は口論になる。そこへ妻が仲裁にかけつけるのだが、

今も昔も水不足は深刻な問題ですが、殊に昔の農業用水の分配は農民によって死活問題であり、水泥棒の監視をするのは夏の習慣だったそうです。嫁姑ならぬ、智舅の争いはどちらに軍配があがるのでしようか。